

馬道の清元家内榮と云ふ三味せんの師匠（藝者）
行い此より来る埋^{うめ}屋の娘といふ劇^{あはれ}とめて
親へ堅氣の薪^{きん}う其子ハ互^{たひ}は胸の火の思ひまゐて主^へ竈
の二人り並んで同^{どう}く死^しやぞ銅子と云ふ水も漏^もれ釜^{かま}の底
手鍋^{てなべ}さびても燃^もば消^けして替^かりぬ二世三世と繩^{しな}で結^{むす}んで約
束^{くわ}あきといふも一人りの息子と娘とても相談出来まふと
親と親^{おや}の節^{ふし}と聞^{きこ}てとても漆^し盆^{ぼん}め緑^{ろく}あふ東橋^{とうきし}より身
を投^なげと二人り兼^{かみ}て用意^{ようい}の石片^{いし}袂^{たもと}に入^いきて

世本堂

八尾善板